

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社Libry

【ツール名】

Libry / Libry for Teacher

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

2022年2月

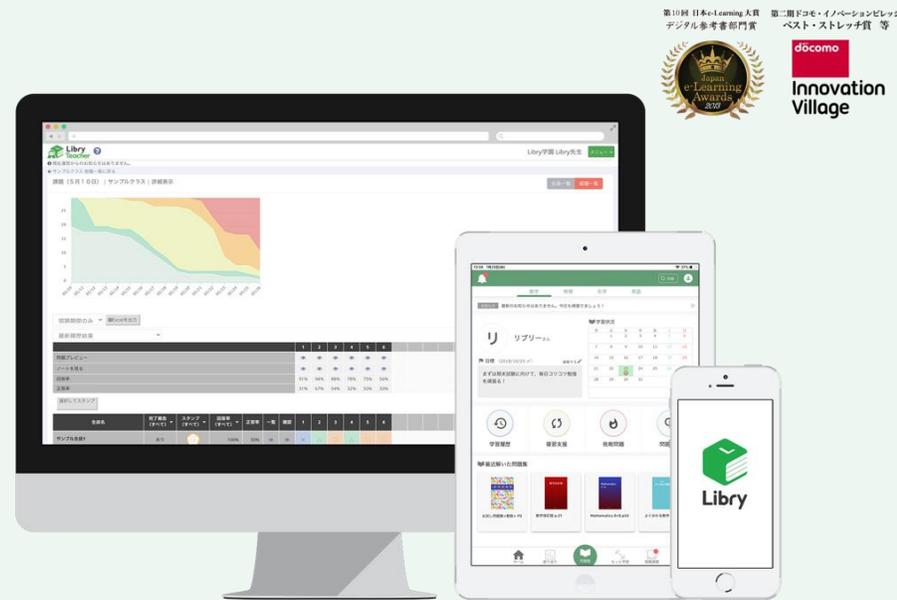


Libry

教科書・問題集・参考書をデジタル化し、生徒・教員双方に新しい学習体験を提供



- 全国**1000**校以上に提供！
- 対応書籍は**260**冊以上！
- **信頼ある出版社**の教材をデジタル化！
- **AIドリル機能**で個別最適化学習を実現！



(アダプティブラーニング)

生徒の「**個別最適化学習**」と先生の「**働き方改革**」を実現。

学校からは以下の様な課題があると伺ってありました。

- ① (生徒の課題) 教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からない。
- ② (先生の課題) 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。
- ③ (生徒の課題) 授業で使う教材の量が非常に多く、嵩張る、等など。

【実際の声】

「(問題の演習方法について) いつも問題集を順に解くか、先生からの宿題を解いています。演習量増やしたくても、それ以外に何を解けば良いのか自分では分からないので。」 (生徒)

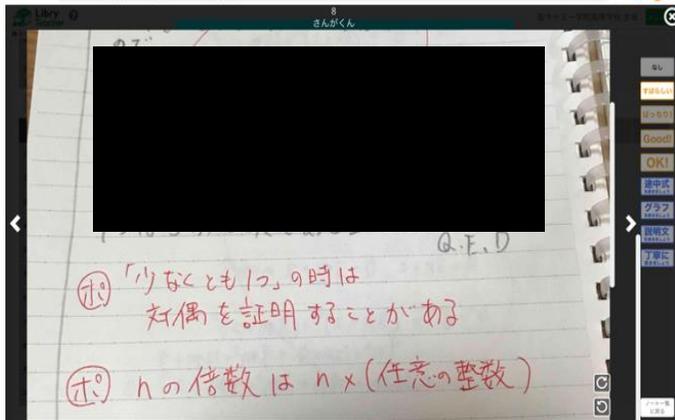
「もっと生徒の解答の癖の分析とか、正答率をみて課題を工夫しなきゃと思ってますが、正直宿題集めるとか作成するというところで手一杯で、それ以上はできていません。」 (先生)

「学校でも自習をしたいので学校の教科書と問題集をそれぞれの教科で持ち歩いてますが、部活の道具も合わせると嵩張るので『嫌だな』と思いながらいつも我慢しています。」 (生徒)

それに対して以下の通り対策をおき、導入決定いたしました。

- ① (生徒の課題) 教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からない。
- ② (先生の課題) 業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。
 - Libryのデータを基に生徒個別に課題を作成・配信。
また結果をLibryで確認してフォローを行うというPDCAサイクルを実行する (後述)。
- ③ (生徒の課題) 授業で使う教材の量が非常に多く、嵩張る。
 - Libryにより、教科書・副教材をデジタル化。ICTツールがあれば閲覧可能にする。

先生から生徒への課題配信・回収を手軽に実現しました。



※生徒のノート内容については黒抜きとさせていただきます。

活用の流れ

1

先生はクラス全体に課題を配信。
生徒は家庭で演習を実施して、提出。

授業の中で課題を配信し、生徒には家庭で取り組んだノート写真と一緒に解答結果を提出（送信）してもらいました。

2

先生は生徒の解答・正誤状況をLibry上で確認。
必要に応じた追加課題配信を実施。

生徒が解答結果を入力してくれるだけで、手軽にクラス全体の正答率、個別の正誤状況がわかるので、個人ごとの情報を基に課題をカスタマイズ&個別生徒のフォローを行いました（特に正答率低い生徒へのフォロー、追加課題の提示など）。

3

「個別最適化学習」と「先生の業務軽減」を実現！

専任担当によるリモートでの導入・運用サポートを実施しました。

サポート内容

1 導入研修（本案件向けに特別に実施、有償）

導入にあたり、各学校の先生に対してオンライン研修を実施。Libryの基本的な使い方や効果的な利用方法などをご説明しつつ、質疑応答で導入に向けた懸念点の解消を行った。

2 導入後の定期サポートミーティング（通常サービス、無償）

各学校の先生と定期でミーティングを実施。実際に導入してお困り事が無いかを確認しつつ、Libryの活用データなどを提示して、学びがどう変化しているかを確認しつつ、より学びに活用いただける方法を提案行った。

3 随時問合せ内容への対応（通常サービス、無償）

日々発生するトラブルやニーズに対して、担当より随時回答。必要に応じたオンラインサポートを実施して解決を行った。



以下自治体、学校に対してLibry導入をいたしました。

【導入実績】

ライセンス発行数・・・3,253名
(生徒3,168名、教師85名分)

•**津市教育委員会**

東橋内中学校 / 橋南中学校 / 東観中学校 / 南が丘中学 /
豊里中学校

•**名護市教育委員会**

屋部中学校

•**墨田区教育委員会**

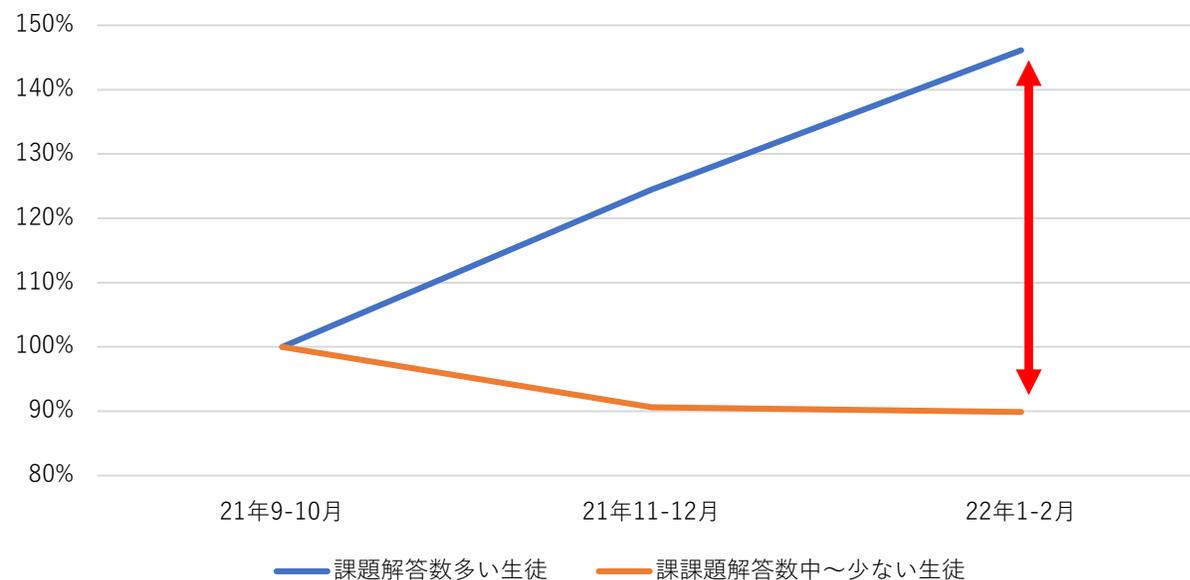
錦糸中学校

(合計7校、3市区)

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察①

前記の指導方法を実施した学校について、特に課題を積極的に解いてくれている生徒の正答率の変化を確認。すると、その他の生徒と比べ正答率が向上した事がわかりました。

演習正答率の推移



※21年9-10月段階の正答率を100%としたときの各期間の正答率の推移

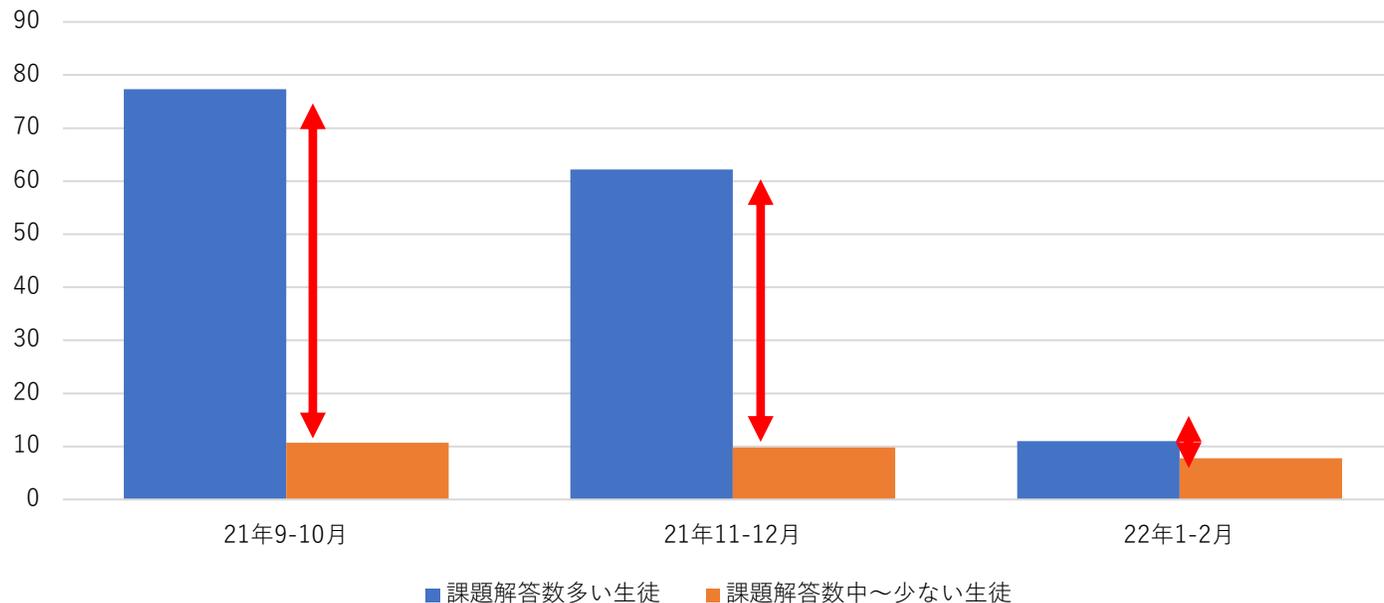
※母数：Libryを用いた課題演習を実施いただけただけの学校の生徒130名

※解答数多い生徒：解答数TOP10の生徒 / 解答数中～少ない生徒：解答数TOP10の生徒以外

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察②

課題解答数多い生徒に対して「先生からの課題以外での自主演習量」を確認。すると各期間においてその他の生徒より自主演習量も多く、「先生からの課題演習を通じて苦手を認識、自分の演習に活かしている」と推測されます。

自主演習量の比較



※22年1-2月について、課題解答数多い生徒の何名かはLibry内の教材の問題を解き終えており、Libryでの自主演習量が下がったもの
※母数：Libryを用いた課題演習を実施いただけただけの学校の生徒130名
※解答数多い生徒：解答数TOP10の生徒 / 解答数中～少ない生徒：解答数TOP10の生徒以外

以上を踏まえて、積極的にLibryを活用していただけた生徒については、学びの促進効果があったと考えております。

【再掲：導入時の課題】

- ①（生徒の課題）教材を用いてどう自主的に学べば良いか分からない
- ②（先生の課題）業務量が多く、生徒個別に学びを提供出来ていない。

→Libryのデータを基に生徒個別に課題を作成・配信。

また結果をLibryで確認してフォローを行うというPDCAサイクルを実行する。

【活用結果】

- ・個別にカスタマイズした課題に対して、積極的に解いていただけた生徒は正答率向上の効果が見えた。
- ・それらの生徒は自主演習量も増えており、課題演習を通じて「何を学べばいいか」の理解度が高まり自主性を引き出せたものと推測される。

(③「教材が多く嵩張る」という生徒の課題は残念ながら解決できず)

先生・生徒からのコメントもポジティブ。他社製品と柔軟に組み合わせる等、工夫して有効に活用をいただいていた。

生徒の学習状況が可視化されるようになり、どこに苦手があるかが簡単にわかるようになりました。おかげで業務効率も上がり、助かっています。（先生）

朝、Libryで生徒が学習している姿を見えています。ICTも当初より使いこなせるようになってよかったです（先生）

間違ったところだけを確認できたりするので、テスト勉強のとき便利です。（生徒）

自分の解いた問題量が見れて、今日はいっぱい解けたなと思いながら使ってます。（生徒）

以下の通り、学校・自治体・企業の連携をより良くしていくことが今後の円滑な導入・運用に必要なものと考えています。

【課題感と改善策】

1. 先生の積極活用に向けた課題：自治体のスタンスから、企業から学校に積極的な導入サポートを行えない例が有った。
→（改善策）自治体より、企業から学校への直接連絡・サポートを一律で認めていただく。それが出来ない地域では、導入に向けていつ・何を・だれが・どうやってサポートを行うか、自治体/企業で決める場を設けることを必須とする。
- 2.先生の積極活用に向けた課題：自治体の個人情報の取り扱いのスタンスから、システムに生徒名を登録できない等の例が有った。（システム上で名前が出ないのでどの生徒か分からず使いづらさを感じる）
→（改善策）自治体より、個人名登録の許可をいただく。それが出来ない地域では、それを早期に共有いただき、個人名を用いない運用を企業・学校間で構築する。
- 3.生徒の積極活用に向けた課題：自治体が端末に持ち帰りを禁止しており、生徒が自宅で自ら学ぶ為にICTツールが使えない例が多くみられた。
→（改善策）自治体より、持ち帰りの許可をいただく。それが出来ない地域では、それを早期に共有いただき、企業・学校間で自学をより柔軟にできる体制を作る（放課後の自習時間の設置など）。

■ 会社概要

< 会社概要 >

社名：株式会社Libry

代表取締役：後藤 匠

設立：2012年5月

所在地：〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町寿共同ビル 4F

社員数：56名(2022年1月現在)

資本金：271,001,600円

売上高：94,424,270円 (21/2月期実績)

< Edtech導入補助金に関する問い合わせ先 >

株式会社Libry 営業部 セールスグループマネージャー 古川 宏治

MAIL：k.furukawa@libry.jp

TEL：070-1443-0978